

【マイスター・ハイスクール事業の概要】

1 趣旨

第4次産業革命の進展、6次産業化等、産業構造や仕事内容は急速に変化している中、職業人材育成システムの刷新・構築が喫緊の社会的要請になっていることから、専門高校と成長産業化に向けた革新を図る産業界等が一体・同期化し、地域の持続的な成長を牽引するための、絶えず進化する最先端の職業人材育成システムを構築し、全国各地で地域特性を踏まえた取組を加速化させることを目指す。

2 指定校

北海道静内農業高等学校、北海道厚岸翔洋高等学校

3 研究指定期間

- 北海道静内農業高等学校
令和3年度（2021年度）から令和5年度（2023年度）までの3年間
- 北海道厚岸翔洋高等学校
令和4年度（2022年度）から令和6年度（2024年度）までの3年間

4 実践研究内容

- 北海道静内農業高等学校
軽種馬、野菜生産や食品加工など、特色ある日高の農産業の実践をとおして、地域産業の課題解決の一助を担うとともに、フロンティアスピリッツのもとに地域と産業の持続的発展を牽引するイノベーターとしてのマイスターを育成する。
- 北海道厚岸翔洋高等学校
IT技術を活用したスマート水産業の実践を通して、地域の資源管理型漁業の推進に寄与するとともに、デジタル人材の育成をはじめとした地域産業の持続的な成長を牽引する最先端の職業人を育成する。

マイスター・ハイスクール（次世代地域産業人材育成刷新事業）

背景・課題

- 第4次産業革命の進展、デジタルトランスフォーメーション（DX）、6次産業化等、**産業構造・仕事の内容は急速かつ絶えず革新**。
- 更に新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中、DX、IoTの進展の加速度がさらに高まり、こうした**革新の流れは一層急激**に。
- こうした中、地域産業の人材育成の核となる専門高校の社会的要請として、**産業構造・仕事の内容の絶え間ない変化に即応した職業人材育成**が求められる。

産業界と一体となった専門高校の職業人材育成の抜本的改革

- 「マイスター・ハイスクール」を指定し、産業界他関係者一体となったカリキュラム刷新・実践（コース、学科改編等）
- **マイスター・ハイスクールCEO**を企業等から採用し学校の管理職としてマネジメント
- 企業等の**技術者・研究者等を教員として採用**
- 企業等での**授業・実習を多数実施**、企業等の施設・設備の共同利用
- 専攻科設置や高専化、大学連携等の**一貫教育課程導入等の抜本的な改革** 等
- 件数：18箇所（継続12箇所含む）（予定）
- 委託先：学校設置者、地方公共団体、民間事業者等

➢ 第三者機関によるPDCAサイクルの構築

➢ 専門高校の取組の成果等の魅力発信 を実施

第4次産業革命を担う職業人育成

専門高校

産業界

デジタル人材育成の加速化をはじめとした、地域産業の持続的な成長を牽引する最先端の職業人材の育成

【北海道 CLASS プロジェクト（地学協働活動推進実証事業）の概要】

1 趣旨

地域と学校との連携・協働体制を整備し、活動を通じて「まち・ひと・しごと」と「学び」とのつながりづくりに貢献できるよう、以下の取組を実施する。

- (1) 研究指定校を指定し、当該指定校に地域コーディネーターを配置することで、高校と自治体や産業界をつなぎ、地域課題探究型のキャリア教育を推進
- (2) 持続可能な地学協働活動実現に向けたコーディネート機能の強化のため、研究指定校に配置する地域コーディネーターに対し研修を実施
- (3) 社会教育主事、社会教育士など、社会教育を担う人材が地域の多様な主体と学校等をつなぎ、連携・協働プロジェクトの創出・推進を支援

2 研究指定校

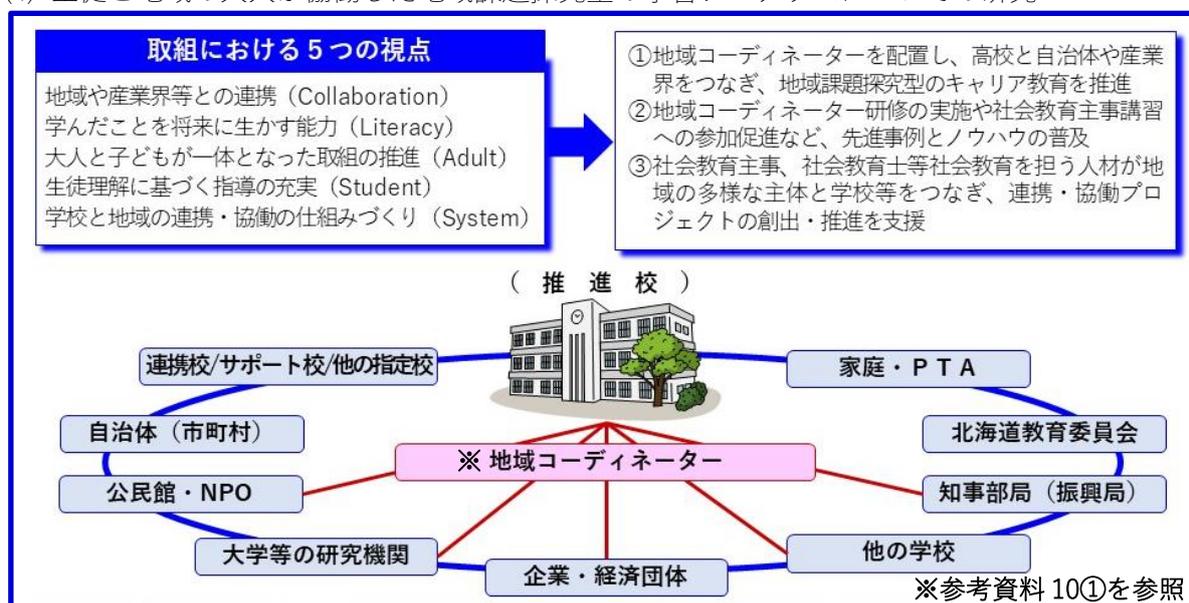
圏域	推進校 (本事業の中心校)	連携校 (既存の取組の拡充を図る高校)
道央	当別高校	夕張高校
道南	白老東高校	鷗川高校
道北	上富良野高校	豊富高校
道東	帯広三条高校	本別高校

3 研究指定期間

令和3年度(2021年度)から令和5年度(2023年度)までの3年間

4 実践研究内容

- (1) 各研究指定校に配置する地域コーディネーターを中心とした、高校と地域の自治体や産業界等が連携・協働するコンソーシアムを構築する研究
- (2) 地域コーディネーター等による持続可能な地学協働活動の実現に向けた効果的なコーディネート機能の在り方についての研究
- (3) 高等学校と社会教育関係人材（社会教育主事、社会教育士等）との連携・協働の在り方についての研究
- (4) 生徒と地域の大人が協働した地域課題探究型の学習プログラムについての研究



【地域コーディネーターの事例】

① 北海道 CLASS プロジェクトで配置している「地域コーディネーター」の事例

当別高校では、「北海道CLASSプロジェクト（地学協働活動推進実証事業）」を活用して、地域と連携・協働した地域課題探究型のキャリア教育を推進している。

持続可能な地学協働活動の実現に向けたコーディネート機能を充実するため、地域コーディネーターの選定に当たっては、当別町教育委員会と連携を図り、地元青年会議所において「まちづくり」のイベントや取組を行っている会社役員に依頼した。

1 活動内容

- (1) 本校職員の地域と協働して実施したい学習内容の把握
- (2) 生徒と地域の大人が協働した学習プログラムの準備
- (3) 本校の教育活動に協力してもらえる地域住民の発掘・調整
- (4) 学校の広報活動を支援する取組

2 具体的な活動例

(1) 教諭との面談の実施

「総合的な探究の時間」を活用した地域課題探究型のカリキュラムの構築に向けて、本校教諭が地域と協働して実施したい学習内容や実施に向けた困り感を把握するために、教諭一人ずつと面談を実施した。教諭との面談を実施した結果、地域課題探究型のキャリア教育の推進に向けた共通理解を図りながら、学習プログラムを準備した。

(2) 当別開拓の歴史

「まちを知る」ことをテーマに、本校1年生（普通科、園芸デザイン科、家政科）を対象に、当別町の歴史を知るプログラムを実施した。講師には、当別神社の宮司さんに依頼し、日程及び内容の調整を行った。



当別開拓の歴史①



当別開拓の歴史②



家政科生徒による試作メニューの試食

② 市町村教育委員会と連携して配置している「地域コーディネーター」の事例

下川商業高校では、生徒が地域の課題に向き合い解決するための資質・能力を身に付けるため、下川町教育委員会が任用する地域コーディネーターを活用し、学校と地域が一体となって総合的な探究の時間に取り組むなど、地域と連携・協働した教育活動の充実を図っている。

1 地域コーディネーターの役割

- (1) 学校と地域のニーズを把握及び関係機関との連絡調整
- (2) 総合的な探究の時間の実施に向けた情報の収集と発信
- (3) 総合的な探究の時間の活動内容への提案や支援

2 具体的な活動例

(1) 総合的な探究の時間（課題研究代替）

総合的な探究の時間において、地域コーディネーターは、地域の教育資源を活用した活動の充実を図るため、学校と地域をつなぐ役割を担っている。

下川町には地元出身の若手経営者や道外から移住した企業家など、新規事業への挑戦や、町づくりに取り組む方が多く住んでいることから、地域コーディネーターは、地域資源の活用に向けた情報収集、授業の充実に向けた講師の選定、探究活動の実施に向けた関係機関との調整等を行っている。

学校は、年度当初に、担当教員とオンラインや対面形式で打合せを行い、授業計画を作成する。

(2) 今後の活動予定

令和4年度から、地域コーディネーターが学校に週1回常駐し、さらに地域と連携・協働した教育活動の一層の充実を図る予定。（取組予定）

- ・ インターンシップでの連携
- ・ 学年ごとの地域研修のプログラム作成
- ・ 学校と地域が連携した活動の情報発信
- ・ 地域学習に係る講師の選定
- ・ 地域行事参加に向けたプランの作成



生徒に説明している様子



町内で活動を伝える様子



地域学習発表会